

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●大学が設置したNASから学生51,000人分の個人情報が見え可能な状態に

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1501/19/news149.html>

http://www.tmu.ac.jp/news/topics/8448.html?d=assets/files/download/news/press_150119.pdf



このニュースをザックリ言うと…

- 1月19日、首都大学東京は、同大学のネットワーク上から学生や教員らのべ約51,000人分の個人情報が出た可能性があると発表しました。

- 発表によれば、昨年8月に大学の事務室に設置されたNAS（ネットワーク接続ストレージ）が外部からのFTPアクセスが可能になっており、1月5日にFTP機能が無効にされるまでの約4ヶ月間、ID・パスワードなしでのデータの読み出しが可能になっていたとのこと。

- これにより、「英語クラス編成試験に関する約15,000人分の氏名とTOEICスコア」「入学手続き予定者 約10,000人の氏名・住所・電話番号・生年月日」「教員約9,000人の氏名・住所・メールアドレス」等の個人情報が流出したとみられています。

AUS便りからの所感等

- 基本中の基本ですが、サーバやNAS等を組織内でのみ利用する場合は、決して外部からアクセス可能な場所に直接接続せず、ファイアウォールやUTM等の下部に設置することが重要です。

- 特に今回のような既製品を扱うにあたっては、必ず、こういった機能があり、どれがデフォルトで有効にされているかを十分に把握し、設置・運用の前には不必要な機能を設定で無効化することであり、これはファイアウォールやUTM等の下部に設置する場合でも必要なことです。

速報 STUD/O ベンチャー人 製品動向 ネットの話題 社会とIT セキュリティ 企業・業界動向 ブログ 中堅・中小

ITmedia ニュース > 社会とIT > 首都大学東京、学生ら5万1000人分の個人情報が流出...

2015年01月19日 18時50分 更新

首都大学東京、学生ら5万1000人分の個人情報が流出した可能性 NASが外部に公開状態

首都大学東京の学生や教員らのべ約5万1000人分の個人情報が流出した可能性。データを保存していたNASが外部に公開された状態のままになっていたという。

[ITmedia]

印刷/PDF ツイート 1,044 いいね! 464 チェック 8+1 58 Pocket 114 通知

PR 茂木健一郎氏登壇「脳を活かした仕事術」で差をつける

PR ~ストレージ疑問解決サイト~営業も情シスも納得

首都大学東京は1月19日、学生や教員らのべ約5万1000人分の個人情報が流出した可能性があると発表した。データを保存していた学内のNAS(ネットワーク接続ストレージ)が4か月以上外部に公開された状態になっており、データには閲覧制限をかけていなかったという。

同大によると、流出した可能性があるのは(1)「英語クラス編成試験」に関する氏名・TOEICスコア約1万5000人分、(2)入学手続き予定者の氏名・住所・電話番号・生年月日約1万人分(うち学外1500人)、教員(非常勤含む)の氏名・住所・メールアドレス約9000人分——など。

サイトに謝罪と問い合わせ窓口の開設告知を掲載

首都大学東京 平成27年1月19日
TOYO METROPOLITAN UNIVERSITY 公立大学法人首都大学東京

首都大学東京における個人情報を含むNASに対する外部からのアクセスについて <お詫び>

この度、首都大学東京南大沢キャンパスの管理部教務課事務室内のNAS（ネットワーク接続ストレージ）に格納している電子データが、一定期間（平成26年8月22日から平成27年1月5日まで）、外部からアクセス可能な状態になっていたという事象が発生いたしました。

関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことを深くお詫び申し上げます。今後、このようなことを起こさないよう、個人情報を含む情報の適正な取扱いについて、さらなる徹底を図り、再発防止に努めてまいります。

1 経緯
平成27年1月1日、学外の方からも、本学に設置してあるNASに格納されている情報が外部から閲覧できるようになっているとのメールでの情報提供があったことを、1月5日に確認し、調査を行った。同日、外部からアクセス可能な状態（FTP共有が有効）のNASを発見し、直ちに、外部からアクセスできない状態（FTP共有を無効）とした。なお、現在まで情報が悪用されたとの報告や被害の発生については確認されていない。

※ FTPとは、File Transfer Protocol（ファイル・トランスファー・プロトコル）の略、機器間におけるファイルのやり取りを行うための仕組み。

2 発生原因
当該NASは、通常外部からもアクセス可能な状態（FTP共有が有効）で出荷されている製品であり、設置時に設定変更をする必要があった。しかし、設定を変更せずに使用していたため、外部からFTPアクセスが可能な状態となっていた（ユーザーID・パスワ

サイトに謝罪と問い合わせ窓口の開設告知を掲載

●2014年に流出したパスワード、最多は「123456」で2位は「password」

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/news/14/110601779/012100077/>
<http://splashdata.com/press/worst-passwords-of-2014.htm>



このニュースをザックリ言うと…

- 1月15日(現地時間)、スマートフォン向けパスワード管理ツールなどを提供する米SplashData社は、2014年に流出した約330万件のアカウントを集計し、最も多く利用されていたパスワードのランキングを発表しました。

- 最も多かったのは「123456」、続いてトップ5として「password」「12345」「12345678」「qwerty」が続いています。

- 同社では毎年このランキングを発表していますが、2013年のランキングでは「123456」「password」「12345678」「qwerty」「abc123」がトップ5でした。

AUS便りからの所感等

- 挙げられている簡単な数字の羅列、英単語あるいはキーボードで左から順にタイプしただけのような文字列は、攻撃者がアカウント奪取を目論む際に真っ先に試行するパスワードです。

- どういったパスワードを設定するか、パスワードをいかに管理するかは長年議論となっていますが、他人にすぐに推測されてしまうパスワードを設定しないことがまずは第一です。

統計 & 調査 itpro

[データは語る]2014年に流出したパスワード、最多は「123456」で2位は「password」

2015/01/21
鈴木 英子=ニューズフロント(筆者執筆記事一覧)

記事一覧へ >>

127 6 16 26 71

おすすめ 共有 フォックマーク Pocket ツイート

シェア

米SplashDataは現地時間2015年1月20日、2014年に流出した330万件のパスワードを集計した結果を発表した。最も多かったのは2013年と同様に「123456」、次いで「password」だった(図)。

SplashDataが2011年に同調査を開始して以来、順位の入れ替えはあってもこの2つが常にワースト2を占めているという。

3位は「12345」、4位は「12345678」が続き、15位の「1111111」なども含め、単純に数字を並べたパスワードは上位25件のうち9件を占めている。数字のみのパスワードを設定することは避けるべきだとSplashDataは忠告している。

図●2014年に流出したパスワード上位10件(米SplashDataのプレスリリースから引用)
[画像のクリックで拡大表示]

●Google配信のAdSenseで悪用発生、不正サイトに誘導される

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1501/16/news050.html>
<http://blog.sucuri.net/2015/01/adsense-abused-with-malvertising-campaign.html>



このニュースをザックリ言うと…

- 1月14日(米国時間)、セキュリティベンダーのSucuri社がGoogleの広告プログラム「AdSense」を悪用した不正行為が昨年12月から1月にかけて発生していたことを発表しました。

- 具体的には、AdSenseによって広告を表示しているサイトから、「Forbes」等大手雑誌のサイトになりました偽のサイトに強制的にリダイレクトされるという問題が報告されており、広告を配信するアカウントが乗っ取られ、正規の広告が改ざんされたことにより、不正なスクリプトが広告に含まれたことが原因とされています。

- Google側の対応により1月11日には解決しましたが、Sucuri社ではGoogleが潜在的に有害な副作用を発生させるコードの使用を制限していなかったことに懸念を示し、このままではAdSenseが世界最大の悪質広告プラットフォームになりかねないと警告しています。

AUS便りからの所感等

- これまで、Flash Playerの脆弱性を突くような悪質な偽広告が配信されるケースが多く報告されているのに比べれば、今回使用されたスクリプトが閲覧者に直接大きな被害をもたらすものではなかったとは言え、表示するだけで何らかの攻撃を受けるような広告が配信されないよう、安全な広告配信システムの構築が求められることでしょう。

- ユーザ側の防衛策としては、広告表示を抑止するようなブラウザの拡張を導入、およびアンチウイルス・UTMによる防御が有効です。

速報 STUDY/0 ベンチャー/人 製品動向/ ネットの話題/ 社会とIT/ セキュリティ/ 企業・業界動向/ ブログ/ 中堅/中小

ITMedia ニュース > セキュリティ > Google配信のAdSenseで悪用発生、不正サイトに誘導... 2015年01月16日 07時39分 更新

Google配信のAdSenseで悪用発生、不正サイトに誘導される

AdWordsのアカウントが何者かに乗っ取られ、正規の広告が改ざんされて、その広告の掲載サイトが表示されると自動的に不正サイトにリダイレクトされる仕掛けになっていたという。

[鈴木聖子, ITMedia]

印刷/PDF ツイート/52 いいね!/33 チェック/5 Pocket/13 通知

茂木健一郎氏出現「指を動かした仕事前」で差をつけろ
【2年で後輩団】クラウドサービスでコスト削減を目指す

Googleの広告プログラム「AdSense」の広告を表示したWebサイトが不正サイトにリダイレクトされる問題が12月から1月にかけて続発し、Googleが対応に乗り出していたことが分かった。1月14日のブログでこの経緯を伝えたセキュリティ企業Sucuriは、「GoogleのAdSenseとAdWordsの両方に極めて深刻なセキュリティ上の欠陥があることが示された。問題が真に解決されたことを望む」とコメントしている。